

気仙沼・本吉エリア

気仙沼市 南三陸町



安波山から眺めた4年目のまち並み(気仙沼市)



気仙沼・本吉エリアは、宮城県の北東部に位置し、気仙沼市、南三陸町の1市1町で構成されています。

復興のリーディングプロジェクトとして整備が進められている「三陸沿岸道路」は、南三陸道路で、平成26年4月に「1号トンネル」の貫通式が行われるなど、(仮称)志津川IC～(仮称)南三陸海岸ICの平成28年度供用開始に向けて、急ピッチで工事が進められています。また、平成26年11月には、本土と大島を結ぶ大島架橋事業で、平成30年度の完成をめざして本体工事が始まりました。

基幹産業である水産業は、気仙沼魚市場で生鮮カツオの水揚げ量が18年連続の日本一(1万9,569トン)となったほか、サンマの水揚げは前年の2.5倍となる2万7,218トンと、全国2位になりました。

また、南三陸町では、国の関係7府庁が共同で推進している「バイオマス産業都市」に選定され、食品廃棄物や下水汚泥を用いたバイオガス発電・熱利用などの取り組みが始まりました。

気仙沼・本吉エリアの被害状況

	地域合計	県内合計
死者	1,831人	10,530人
行方不明者	440人	1,255人
全壊	11,626棟	82,993棟
半壊	2,749棟	155,126棟

(平成27年1月31日現在)

応急仮設住宅入居者数

	平成24年3月	平成27年1月
プレハブ住宅	14,094人	10,398人
民間賃貸借上住宅	6,085人	2,274人
計	20,179人	12,672人

(平成27年1月31日現在)

災害公営住宅整備(事業着手)状況

	平成26年2月	平成27年2月
計画戸数	2,970戸	2,893戸
着手戸数	2,162戸	2,893戸
完了戸数	0戸	179戸

(平成27年2月28日現在)



市内で初めて入居が始まった南郷災害公営住宅(気仙沼市)



復興のまちづくりを紹介する情報センター(南三陸町)

気仙沼・本吉エリアの定点観測

気仙沼市大谷海岸周辺

防潮堤が損壊し、海岸防災林の多くが流出した大谷海岸は、土のうによる応急対策が行われ、施設復旧と防災林の再生が進められています。



気仙沼市魚市場周辺

津波と地盤沈下により大きな被害を受けた魚市場は、土地のかさ上げ工事が進められ、魚の水揚げ量は震災前の7割以上まで回復しました。



気仙沼市唐桑町只越地区周辺

津波によって道路が寸断されましたが、復旧工事が完了し、車などが通行できるようになりました。



南三陸町立志津川中学校からのまち並み

町全体が津波で被災しましたが、かさ上げ工事のために、たくさんの重機が稼働しています。



南三陸町志津川助作周辺

被災したJR気仙沼線の応急的な輸送確保のために、BRT（バス高速輸送システム）の専用道が整備されました。



南三陸伊里前地区のまち並み

震災により発生した大量のガレキ撤去が完了し、写真奥では伊里前漁港の復旧工事が進められています。



2014年4月2日 水曜日

復旧！「気仙沼シャークミュージアム」始動！

(気仙沼市)



4月2日、東日本大震災で被災した気仙沼産業センター「海の市」が復旧・プレオープンし、サメをテーマにした博物館「気仙沼シャークミュージアム」などの一部施設が3年ぶりに営業を再開しました。

2014年5月11日 日曜日

豊かな森と海を守る、 浜の日本男児

(南三陸町)



「津波はやってきた。でも海は、それでも俺たちを生かそうとしてくれているんだなって思います」と、この春、震災後初めて牡蠣を出荷した南

三陸町伊里前の千葉拓さん。「自分たちがつくった牡蠣を直接販売し、おいしいと言ってもらえるのはやりがいがあります」と話していました。

2014年5月24日 土曜日

「やっぱり海は面白い！」

(南三陸町)



「やっぱり海で生きていくんだと決めた。歌津の海の豊かさ。そのあたりまえを、町の友だちと一緒に、楽しみながら発信していけたらいいなって」。南三陸町歌津泊浜の漁師・高橋直哉さんは、まだ仮設だという作業場で話してくださいました。

2014年5月25日 日曜日

漁業の復興へ！「地上いけす」を整備 ～カタルフレンド基金～

(気仙沼市)

「漁業の再生が東北の復興のかぎになると思います。カタルがその一翼を担うことができうれしいです」。中東・カタル国国の助成で気仙沼市北東部の小田地域に「地上いけす」が建設され、駐日特命大使も出席して盛大な開所式が開かれました。



2014年6月23日 月曜日

困っている人がいれば 行動するのが当たり前

(気仙沼市)

配食サービスの「気仙沼給食センター」を運営する生駒和彦さん。津波火災で自宅を失いましたが、難を逃れた工場に残った食材と燃料をすべてつぎ込んで、震災が発生したその夜から避難所におむすびなどを届け続けました。



2014年6月25日 水曜日

復興と海の未来を志す。

(南三陸町)

震災を機に仙台での会社員生活を辞めて南三陸町志津川に戻り、養殖漁業に取り組む小野具大さん。「ホヤとホタテ、また漁協の部会でカキ、ワカメなども手掛けています。でもこれまでやったことのない新しい養殖も試してみたいですね」と夢は広がります。



2014年7月26日 土曜日

走行距離 7万 5400km ! 岡山から応援と友情のワゴン車

(南三陸町)



岡山県笠岡市の「明日への架け橋 kasaoka」の皆さん。「全国ぼうさい朝市ネットワーク」の縁で、南三陸町の「復興市」では第1回からの常連です。往復約2,600km。29回目となる7月26日には、全国から募った浴衣110着を担いで駆けつけてくれました。

2014年8月27日 水曜日

私たちもできることで応援します

(気仙沼市、丹波市、広島市)

「震災の時は本当にたくさんの人に助けられたから」。東日本大震災で自宅が大規模半壊した吉田久仁子さんは、地域の女性たちが始めた「私たちにできることで恩返し」という呼び掛けに賛同し、広島県と兵庫県に掃除用のタオルや歯ブラシを送る活動に参加しています。



2014年8月30日 土曜日

夜空に描くみんなの未来！ 福興市で「三河手筒花火」

(南三陸町)



南三陸町志津川の夏の風物詩「八幡川かがり火まつり」に「三河手筒花火」が華を添えました。発案した町職員の篠宮彰里さんは、愛知県新城市役所からの派遣職員。「来年もまた、続いて、南三陸町の新しい風物詩になってくれたらうれしいです」と語ります。

2014年9月16日 火曜日

愛知×宮城おいしいつながり！ 豊川市から大葉のプレゼント

(南三陸町)

愛知県豊川市などから来ていただいた応援職員の方々のご縁で、南三陸町の飲食店組合へ豊川市の「JAひまわり」「東三温室園芸農業協同組合」から「大葉」4,000枚がプレゼントされ、「さんさん商店街」で贈呈式と料理のお披露目が行われました。



2014年9月30日 火曜日

新しいまちが生まれる。私たちが、 できることを～気仙沼市南郷地区

(気仙沼市)

災害公営住宅の建設が進む気仙沼市南郷地区で、受け入れ先の住民の皆さんによる勉強会が開催されました。地域住民の皆さんが準備を進め、地元の気仙沼市社会福祉協議会と宮城県社会福祉協議会がサポートに当たりました。



2014年11月2日 日曜日

「300回の『ありがとう』を 言わせてください！」

(南三陸町)

「たくさんの人たちからいただいた支援や応援に何か恩返しをしたいね～」。11月2日、南三陸町歌津にある産直施設「みなさん館」で、縁のある大勢のボランティアを招いた「第2回金比羅丸&小野花匠園&高芳丸芋煮会」が開催されました。

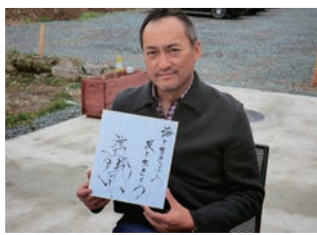


2014年11月30日 日曜日

「黙って寄り添うことも大切」 ～俳優・渡辺謙さん

(気仙沼市)

「人々の心を温かくし、勇気づけ、夢を与えられる場所」としてカフェ「K-port (心の港)」を気仙沼市内にオープンさせた、俳優の渡辺謙さん。「未来は個々人のもの。黙って寄り添う事も大切」と、毎日、K-portにファックスでメッセージを届けています。



2014年12月11日 木曜日

その歌声と笑顔には太陽もかなわない ～サンシズジュニア

(南三陸町)

地元の祭りやコンサート、パーティはもちろん、時に沖縄など県外から招かれて演奏を披露している「サンシズジュニア」。沖縄から支援にやって来た陸上自衛隊第15旅団の音楽チーム「サンシズ」から三線を教わった子どもたちが結成したグループです。



▲ 大島架橋のイメージ

トピックス

大島と本土を結ぶ大島架橋

(気仙沼市)

気仙沼の離島「大島」と本土をつなぐ「大島架橋」。平成26年8月には、地元の小学生などを対象に、現場見学会などを行ったほか、11月には工事の安全と早期完成を祈念して着工式が開催されました。架橋の愛称は「鶴亀大橋」。平成30年度の完成を目指して工事が進められています。



▲ 大島小学校の児童による現場見学会